

【令和6年度 自己評価結果公表シート】

学校法人直江津龍谷学園 真行寺幼稚園

1. 本園の教育目標

(教育目標)

「浄土真宗の精神」にのっとり、宗教的情操の豊かな人材を教化育成することを目標とする。

(教育方針)

- 1) 「仏さまをおがむ子」 たくましい豊かな心をそなえた子
- 2) 「ありがたの言える子」 感謝と協調のできる子
- 3) 「よく聞く子」 聞く態度を身につけ、探求と創造と自立を目指す子
- 4) 「なかよくする子」 助け合うことに喜びを感じ、仲間作りにはげむ子

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

(本年度の重点計画)

1) 「主体性」を育む (5カ年計画3年目)

「主体性を育む」として2年間取り組んできた。日々、反省と改善をくり返している。1番の問題が遊び込む時間がないこと。1日の教育・保育時間が限られている中で、主体性を育むための最も基礎となる「遊び」の時間をいかに確保できるかということが課題。

課題解決のために、行事やイベント、一日の活動を再度見直す。長年やってきたからということでは慣行するのではなく、より子どもたちの育ちにつながるものに重きをおき、それ以外のものは改善、簡略や廃止をする。

また、丸一日じっくりと遊び込むような日を設けたり、自由にいろいろな教室を行き来して、取り組んだり楽しんだりする日を設定する。コロナ禍でなかなか出来なかった、クラスを越えた学年間の取り組みや、学年を越えた異年齢の交流などから更なる「主体性」が発揮する環境を整備する。

行事としては、作品展について重点的に改善する。長期的な活動にして1学期から少しずつ取り組み、運動会やお遊戯会とも連動するようなテーマ設定や作品が子どもたちから生まれることを期待する。運動会とお遊戯会については、昨年度改善を進めることができたので、より進歩させたい。

2) 1歳児保育

今年度、1歳児保育を開始する。これまで満2歳児の保育は実施してきたが、同じ学年とはいえ、はじめての1歳児受け入れである。市内のこども園、保育園の保育見学、教室の改装、経験のある保育士の採用など、出来る限りの準備をしてきた。

実際に保育を開始してあがった課題は、早急に対応改善し、園児と保護者の安心安全を心がけて実施する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
<p>「主体性」を育む <5カ年計画 3年目></p>	<p>A</p>	<p>【行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年中児の作品展とお遊戯会のテーマを「うらしま太郎」に統一した。予めお遊戯会での配役を選び、作品展では衣装や大道具、小道具を制作し、お遊戯会では自分で制作した衣装を着てオペレッタをした。自ら選んだり、考えたりする機会が多くあり、どちらの行事もより興味関心を持ち楽しむ姿が見られた。 ・1、2歳児のお遊戯会を切り離し、発表会としてはじめて平日に開催した。休日開催の場合、保護者と一緒に登園となり、離れがたい子どももいる。平日開催であると通常保育の中での参観となり、子どもたちにとっては無理なく普段通りの姿で発表することができてよかった。 ・年長児のおゆうぎ会、曲や踊りを決める際、「先生だけで決めないでね」という発言があった。子どもたちが納得して楽しめるよう、話し合いの時間をもち、みんなで振り付けなどもアイデアを出し合い作り上げることができた。達成感や喜びを感じることができ、自信につながった。春からの経験の積み重ねが発揮できた行事になった。 ・これまでどろんこ遊びは年長児が年に一度行ってきた。今年は、年長だけでなく、年中、年少も行った。回数も1度だけでなく、何度も行うことで、より泥に親しみ、遊びの工夫や発展が見られた。どろんこ遊びのような、園でしかできない体験をたくさんさせてあげたい。 <p>【年長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの時間を大切にし、意見や希望を言える雰囲気作りを心がけた。意見などが出ないときには、いくつか提案してみることでアイデアを引き出すことができた。 ・失敗や間違いを恐れ、自信のない子が多くあった。職員自らが、自分の失敗を子どもたちの前で認め、改善策を示すようにした。実際、「先生も間違えるんだね」と安心してくれる子がいた。少しずつ失敗を認められるようになり、チャレンジする姿勢がみられるようになった。 ・毎日の自分の席を、子ども同士で相談をしながら、考えて決めて座ることができるようになった。座席を指定、固定していた時に比べ、より多くのクラスメイトと仲を深めることができていのように感じる。また、お友達の得意なことを真似することも増え、刺激になっている。 <p>【年中】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横割り保育（学年内でクラスや教室にこだわらずに保育すること）を定期的に行った。教室毎に違うコーナー

を準備して、自由に選択して遊ぶことができ、クラスの壁を越えて深く交流することができた。そのなかで、自分の意思で決めたり行動する姿が見られた。自分がやりたい活動を選択し、より遊びこめたり、他のクラスのお友達と交流ができてよい機会だった。場所的、人数的な要因で、希望する活動に入れない子もいましたが、「やってみたら楽しかった」という声があり、経験の大切さも感じた。職員は、担当しているクラス以外の子どもの様子も把握することができた。他のクラスの子どもであっても、主体性を育てたり、発言を聞いてあげることができることにつながるよい機会になったと思う

【年少】

・日々の保育の中で、初めての体験をする子が多い年少さんなので、幼稚園が安心して過ごせる場所と思える雰囲気づくりを大事にした。いろいろな遊びなどを体験できるようにした。会話を楽しみながら参加できるよう心がけた。「やりたい!」「できた!」の気持ちを大切にできた。

・安全とのバランスが難しいところもあるが、年少でものびのびとどろんこ遊びをしたり、お出かけや感触あそびなど楽しい経験を重ねられた。

・これまで各学年3クラス体制であったが、今年度の年少ははじめて2クラスになった。2クラスになったメリットを大きく感じる。クラスの隔たりがなく、自由あそびなどでも行き来があり、楽しいことの共有がうまくできている。毎週金曜日に合同でお帰りの会をしている。職員が順番に、エプロンシアターをしたり、それぞれ工夫している。それを見ている子どもだけでなく職員にとっても、よい学びや刺激になっている。

【2歳児】

・日々、好きな遊びを自分で選べるように、ブロック、おままごと、粘土など、遊びのコーナーを環境作りした。子どもたちが自信を持って発言したり、意見を言えるようなアットホームな環境作りをした。子どもとの信頼関係を大切にし、この人の言うことなら聞いてみよう、困ったらこの人に助けてもらえると信じていただけるよう待つ姿勢で関わるように心がけた。

・その子が何かを考えて行動しようとする様子の時は、あえて声がけせず、見守るようにした。自分から「トイレに行きたい」「パンツがいい」「おはして食べる」など、自分の意思でやってみたいことを伝えてくれる子ができてくれてうれしかった。自信につながるよう、前向きになれるよう、声がけを工夫した。

【1歳児】

・1歳児でも興味関心、自分でやりたいという自我の芽

		<p>生えがあり、それを主体性と捉えて保育した。子どもの力を信じて、自ら気づき、やってみようという意欲や発達を促していける援助をすることを心がけた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことなど、自分で取り組みやすい環境を整えたことで、「自分で！」という育ちをたくさん見ることができた。
1歳児保育	A	<p>【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年3月に教室の改修工事をした。必要な備品なども購入し受け入れ体制を整えた。保育開始後も、必要な環境はすぐに整えることができた。 <p>【保育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな事故や怪我もなく1年間保育ができたこと、子どもたちの健康で健全な心身の成長を見ることができたことは、職員のとゆまぬ努力の結果である。 ・「安全」という思いが少し強すぎ、制限せざるを得ない場面があったように思う。安全とのバランスを考慮しつつ、子どもが園でしかできないことを体験させてあげる必要性を感じることもあった。

4. 学校評価の具体的な目標や総合的な評価結果

評価	理由
A	取り組むべき課題について、全教職員が共通理解し、実践することができた。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
主体性を育む ＜5カ年計画 4年目＞	<p>これまで3年間取り組んできたものを踏襲しながらも、見直しや改善点を探る1年とする。最終年度におけ、今後も継続できるような当園ならではの方法を確立する。</p> <p>【行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体性を育む」行事にするため、3年間かけて全ての行事の開催方法や内容を改善してきた。うんどう会とおゆうぎ会に関しては、細かな改善で対応できる。作品展に関しては、改善の余地がある。 ・年中児が作品展とおゆうぎ会のテーマを統一し、大きな成果があった。年間を通して、様々な行事や活動を結びつけ、より興味関心が深まるよう企画したい。

	<p>・令和8年度から、年長、年中、年少がすべて2クラスとなる。行事に関して開催日程や内容など、大きく転換ができる機会となるので、しっかりと検討準備をしていく。</p> <p>【通常保育教育時間】</p> <p>・縦割り保育（学年、クラスにこだわらない保育）を推進する。上の学年の子ども、下の学年の子ども、どちらにとっても大きな刺激や学びがある縦割り保育を、気軽に日常的に行えるようにする。クラスを越えた学年間の取り組みや、学年を越えた異年齢の交流などから更なる「主体性」を発揮できる環境を整備する。</p>
<p>教職員の働き方改革</p>	<p>・保育の質を高めるためには、教職員の心身の健康を保つことが必要。労働時間を守り、必要な休養時間を確保できるよう、人員を配置し、業務内容を見直す。また、教職員一人ひとりが労働時間を守るよう、意識し、互いに協力することも必要。</p> <p>・質の高い保育と教職員の働き方のバランスをとりながら、行事や保育内容の改善を図る。</p> <p>・休日出勤を減らすため、令和8年度から、「入園式」、「花まつり（年長稚児参拝）」、「おゆうぎ会」、「卒園式」などを平日開催にできるよう準備検討する。</p>

6. 学校評議員の評価

令和7年2月15日学校関係者評価委員会（11名出席）が開催され評価いただく。取り組むべき課題解決に向けて、教職員が高い志のもと実践されていると評価をいただく。「主体性を育む」に関しては、着実に計画が進んでおり、引き続き取り組んで欲しい。教職員の働き方改革に関しては、早急に取り組むべき課題である。教職員にとって働きやすい環境を整えることは、間違いなく子どもたちの教育保育に良い影響を与えるものである。管理職を中心に確実に取り組んで欲しい。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

以 上